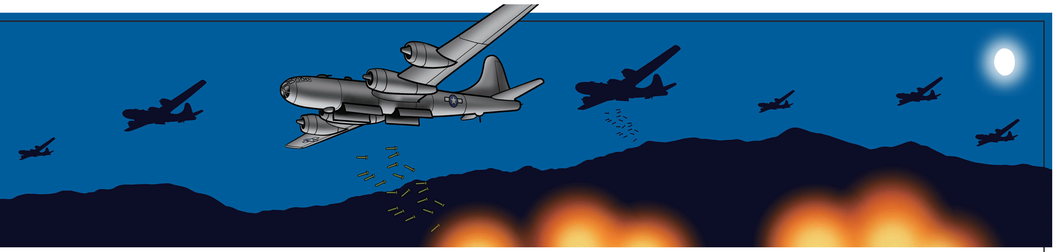
H1,200×W2,500

1945年6月19日の悲劇 雷山空襲



■雷山空襲とは

太平洋戦争末期の1945年6月19日深夜、米軍のB-29爆撃機が現在の糸島市雷山校区の香力・蔵持地区（旧雷山村）に焼夷弾を投下しました。

この攻撃で8名の方が犠牲となり、住宅24戸を含む多くの建物が焼失しました。特に雷山国民学校は講堂を除いて全焼し、農協事務所や興福寺、三社神社も甚大な被害を受けました。この空襲は同じ夜に起きた福岡大空襲と連動して行われたもので、「雷山空襲」として地元に記憶されています。現在も焼夷弾の痕跡や破壊された地蔵像などが残り、戦争の悲劇を伝えています。

■雷山を襲った焼夷弾

雷山に落とされた「M69油脂焼夷弾」は、全長約50㎝、直径約7.6㎝の六角柱状の鋼鉄パイプにナパーム（ゲル化したガソリン）を充填した「ナパーム弾」と呼ばれる兵器です。この焼夷弾は地面に衝突すると起爆し、無数の火の玉状のナパームが爆風とともに周囲に拡散して燃え広がります。ナパームは900～1300度という非常に高温で燃焼し、人体や木材に付着すると落とすことが難しく、水による消火も困難なため、木造家屋が多い日本の都市や農村では甚大な被害をもたらしました。

雷山でも、この焼夷弾により住宅や神社、学校など多くの建物が焼失し、地域に深い傷跡を残しました。

■なぜ雷山が空襲をうけたのか?

なぜ軍事施設があったわけでもなく農村であった雷山が空襲の標的になったのでしょうか。地元では「月が明るく、溜池に反射した光が軍事施設と誤認された」と伝えられるなど、さまざまな憶測がなされてきました。

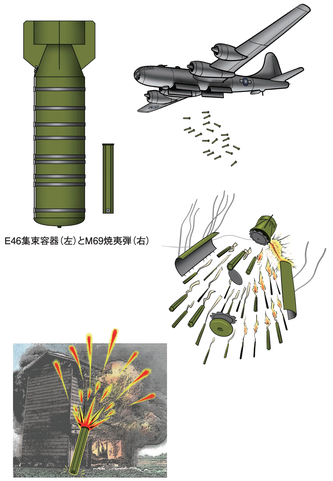
アメリカ国立公文書館に所蔵されている「作戦任務報告書」（米軍による日本本土空襲の記録）によると、「（福岡空襲時）風向きが予想と大きく食い違ったため、数機は目標（天神・中洲付近）接近中に山の裏側の影を目標後方の博多湾と錯覚し、早期投下となった」とあります。空襲当日、米軍のB-29は、雷山以外にも、早良郡入部村・内野村・田隈村（現福岡市早良区）や筑紫郡安徳村・岩戸村（現那珂川市）にも焼夷弾を投下しており、これらはすべて雷山と同様に脊振山系の山裾にあたる地域であるため、山影を博多湾と誤認して空襲した可能性を示唆しています。

■戦争の悲惨な記憶を未来へ

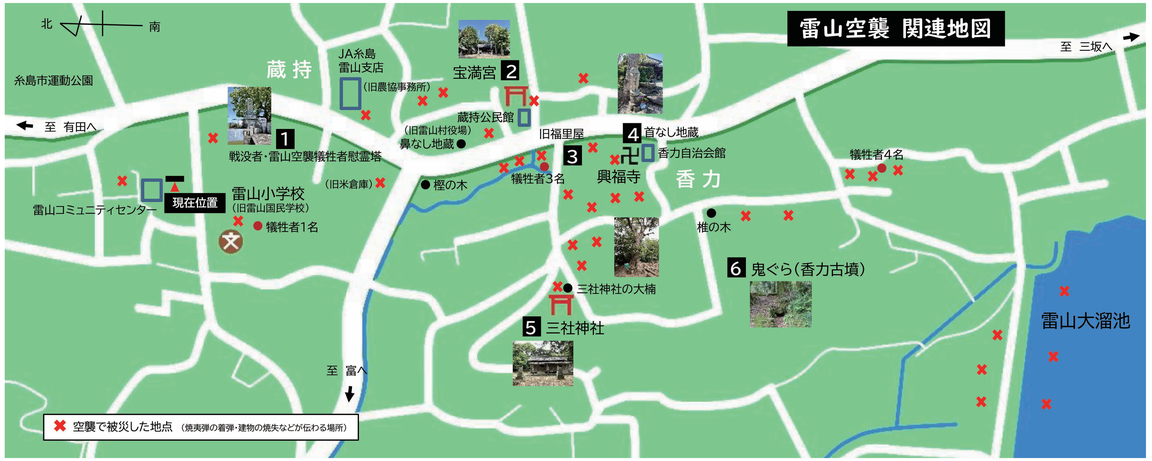
周辺には、破壊された地蔵像や焼けた板壁など、空襲の悲劇を伝える場所が点在しています。これらの戦争遺構は、当時の出来事を今に伝え、平和の大切さを考える貴重な手がかりとなっています。

地元では、毎年6月に雷山戦争遺構を巡るフィールドワークや平和学習が行われています。この取り組みは、雷山空襲の悲劇を風化させることなく、次世代に語り継ぐ大切な活動として地域全体で支えられています。

糸島市



E46集束容器（左）とM69焼夷弾（右）



【雷山空襲の概要】

日　　時：1945年6月19日深夜（23時30分頃）

場　　所：旧雷山村（現糸島市雷山校区の香力・蔵持地区）

犠 牲 者：8名（住民7名、雷山国民学校教諭1名）

被害内容：住宅24戸、その他建物17棟以上が全焼、雷山国民学校は講堂を除いて全校舎が焼失、農協事務所・米倉庫、興福寺本堂、三社神社など焼失

1 戦没者・雷山空襲犠牲者慰霊塔
雷山村出身の戦没者147名と雷山空襲の犠牲者8名をあわせた155名の御霊を祀った慰霊碑です。戦争の悲惨さを忘れず、犠牲となった人々の魂に祈りを捧げるために建立されました。

2 焦げあとが残る宝満宮の板壁
拝殿の南側板壁（正面から右側の壁）の一面に黒く焼けた痕跡が残っています。消火のための水がなく近くの肥桶の肥をかけて火を消したとされ、数日間は臭くて近寄れなかったと伝わります。

3 旧福里屋の焼け焦げた壁
ここには「福里屋」という料亭がありました。空襲により被災し、焼け焦げた板壁などが建物に残っていました。建物は2023年に解体され現在は残っていませんが、焦げた柱の一部を地域内で保管しています。

4 興福寺の首なし地蔵
空襲による爆風により壊され、頭部がなくなったと伝わる地蔵像。興福寺は、空襲により本堂と庫裏の建物が全焼しましたが、大師堂と山門については瓦葺きだったため焼失を免れたといわれています。

5 三社神社
空襲により三社神社の社殿は焼失。興福寺境内にあった金刀比羅宮も焼けてしまったため、空襲から4年後の1949年に金刀比羅宮の石垣を三社神社に移し、合祀したため、「三社神社」「金刀比羅神社」と書かれたふたつの扁額が掲げられています。

6 鬼ぐら（香力古墳）
丘陵上の森の中には、今から約1,500年前につくられた古墳（香力古墳）の横穴式石室が残っており、地元の人々はこれを「鬼ぐら」と呼んで、防空壕として使っていました。空襲があった日には15名ほどの人々がこの中に逃げ込んだといわれています。

2025年6月設置　　協力：雷山空襲を語り継ぐ会　雷山空襲遺跡保存委員会